

指定管理者制度導入施設の管理運営検証結果【検証シート】

			管理No.
施設の名称	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	指定管理者	高畠町
所在地	山形県東置賜郡高畠町安久津2117番地	県担当課 (電話番号)	観光文化スポーツ部県民文化芸術振興課 博物館・文化財保存活用室 (023-630-2879)
指定期間	令和6年4月1日～令和9年3月31日		
検証期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日		

検証項目	指定管理者による自己検証	県(施設所管課)による評価・検証	
1 仕様書等に沿った管理・運営業務の履行状況			
① 管理・運営業務の履行状況	仕様書及び事業計画書の内容を遵守して履行した。 ●普及啓発活動 ①県内市町村の教育機関に「催し物案内」やその都度印刷する各種事業案内チラシを送付して情報提供に努めた。また、展覧会等は全国の関連機関に情報提供を行い、ホームページでも随時情報を公開した。 ②各種体験学習や講座、研修会を開催。令和5年度の新型コロナの5類移行に伴い撤廃された感染拡大防止策に則り、今年度も参加制限などを設けずに各種事業を実施したが、入館者数は、令和5年度に7,293人まで回復していたが、6,257人と1,000人以上減少した。 ●施設・設備等の管理 点検・修繕を適切に行うとともに、これまで同様節電に取り組んだ。常設展示室、企画展示室の照明施設は故障したままで、蛍光灯で代替している状況に変化はないが、できるだけ早い時期の設備更新が望まれる。 ●資料の収集、保管及び展示に関する業務 ①特別テーマ展「遊佐町の考古学Ⅰ」、企画展「山形県の遺跡の中のカミ・ホトケ」を開催した。展示遺跡の調査成果をパネルで展示するなど、わかりやすい展示を心がけた。また、展示図録も刊行した。 ②当館の長年の課題であった収蔵品台帳の整備を継続しているが、他の業務との関連で今年度は加藤稔寄贈予定資料の台帳化を図った。また、日常的に温湿度の記録を行い、除湿器やサーキュレーターを活用し保管環境の改善に努めている。空調設備の更新後も記録作成は継続して実施しているが、特に除湿機の稼働は効果が大きいようである。	評価	《評価の理由》 ・仕様書や事業計画書に沿って、適切に管理及び運営業務が履行されている。 ・自主事業のPRなど工夫して行っているが、入館者数は前年度から14.2%減少している。 ・日常の温湿度の記録を行うなど、適切に保管がなされているほか、収蔵品台帳の整備にも継続して取り組んでいる。 ・経費節減、節電に努め、環境に配慮した管理・運営がなされている。
② 管理・運営上の課題、問題点（改善すべきこと）	展示解説を動画で行うため、館内にWiFi環境を整備していただきたい。	《課題等の原因分析》 企画展の展示解説動画の配信にも取り組み、スマートフォン等で閲覧できるようにしているが、WiFi環境がないため利用者からは整備を望む声が上がっている。	
課題、問題点への今後の対応	開館から30年が経過し、施設の老朽化や経年劣化による設備の不具合も顕在化してきているため、今後も優先度を考慮しながら計画的な修繕及び施設整備に努めていく。		
2 利用者からの要望等への対応			
① 意見・要望等及びその対応状況	●館内にアンケートボックスを設置し、来館者の意見を聞いている。展示についてはおおむね好評であるが、ホームページ上で発信している展示品解説を展示室で見聞きたいので館内にWiFi環境を整備して欲しいとの要望が今年も多かった。早い機会の整備を考えたい。	評価	《評価の理由》
意見・要望等への今後の対応	・今後も来館者に対するアンケートを実施し、利用者の意見・ニーズの把握に努める。 ・把握したニーズについては、可能なところから施設の管理運営に反映していく。	B	アンケート調査の実施により、利用者の要望・意見の把握に努め、利用環境の改善に活かしている。
3 指定管理者制度活用の効果			
① サービスの向上	●これまで各種体験学習や講座は参加人数を制限してきた経緯があり、昨年度からこの制限を撤廃したが参加人数は微増であった。今後は町内及び近隣市町の学校や社会教育施設での体験を含む出前講座を積極的に展開していく必要があると考えられる。コロナ禍で増加した県内小学校の修学旅行による来館が激減しているが、最終目的地が宮城県でありながら、その途中で当館をコースに入れた庄内地方の小学校もあった。このようなコースを積極的に提案することも必要と考えられる。	評価	《評価の理由》
② 経費の節減	●これまでどおり、日頃から省エネ活動に努め、入館者の観覧中を除いて展示室は消灯し、来館者が見込めない冬期間暖房を切って、光熱費を削減した。また、裏紙の再利用や両面印刷で経費削減を行った。	評価	《評価の理由》
③ その他(地域の活性化、雇用の確保等)	●高畠町商工観光課・観光協会と高畠町の6施設と連携した「たかはたなぞってスタンプラリー」は5月の大型連休中に開催された。数回にわたる打ち合わせを経て開催されたイベントだが、次年度以降も継続する予定であり、子供の集まる各施設の連携を強化した事業は地域活性化に結びつくものでもある。	評価	《評価の理由》
総合的な評価	・仕様書、包括協定書、年度協定書に基づき、施設の適切な管理運営が行われている。 ・自主事業や展示内容の充実、修学旅行の積極的な受入れや出前授業の実施等により、より魅力的な施設運営に努めている。 ・引き続き、地域の関係団体との連携をより深めながら、さらなる施設の利用促進や地域活性化に取り組んでいただきたい。		

【評価指標】

- A : 仕様書等に定める水準を上回っている等、優れた対応がなされている。
B : 概ね適正に実施されている。
C : 部分的に改善等を要するところがあるが、既に対応済み又は対応見込みである。
D : 仕様書等に定める水準に達しておらず、大いに改善を行う必要がある。

注) 検証項目については、施設の特性等に応じて適宜追加することができるものであること。